

第63回国立大学図書館協会総会議事録

日 時 平成28年6月16日(木) 13:30～17:40
平成28年6月17日(金) 9:30～12:30
会 場 ホテルメトロポリタン仙台 3階「曙」
当番地区 東北地区協会
当番館 東北大学附属図書館
出席者 232名(総会資料 本編 p.4-6 参照)
会員 89大学・機関 220名
文部科学省 3名
オブザーバ6機関 9名
欠席者 1大学 2名

— 6月16日(木) —

1. 開会式

- 1) 開会の辞 久留島 典子(国立大学図書館協会会長)
- 2) 挨拶 里見 進(東北大学総長)
植木 俊哉(東北大学附属図書館長)
- 3) 復興支援に関する御礼
山尾 敏孝(熊本大学附属図書館長)

2. 議長団選出

司会(米澤東北大学附属図書館事務部長)より、議長団の選出について事務局に提案が求められた。これを受けて、尾城事務局長(東京大学附属図書館事務部長)から、理事会案が提示され、次のとおり承認された。

議長団 議長 宮本 一夫(九州大学附属図書館長)
副議長 喜多 一美(岩手大学図書館長)

(総会資料 本編 p.8 参照)

宮本議長、喜多副議長の挨拶の後、宮本議長から議事に先立ち以下の報告があった。

- (1) 5月の春季理事会の議を経て、協会事業と関連の深い国立情報学研究所学術基盤推進部に、協会として出席を依頼した。
- (2) 高エネルギー加速器研究機構、国立歴史民俗博物館、国立女性教育会館、国立極地研究所、国立国語研究所のオブザーバ出席は、5月の春季理事会で承認されている。

- (3) 文部科学省研究振興局の榎本参事官（情報担当）より，後程，所管事項の説明をしていただく。
- (4) 国立情報学研究所学術基盤推進部の酒井次長より，明日，事業説明をしていただく。
- (5) 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議のもとに設置されている「大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）」、「これからの学術情報システム構築検討委員会」及び「機関リポジトリ推進委員会」について，後程，報告いただく。

3. 全体会議（1）

1) 報告事項

(1) 一般経過報告

尾城事務局長から，昨年の第62回総会以降の本協会の活動について，以下のとおり報告があった。また「国立大学図書館協会ビジョン2020」（案）の策定経過，各地区から出された意見の反映点及び今後の予定について説明があった。

- ① 第62回総会当日の平成27年6月18日（木）に，第1回理事会が開催された。
- ② 平成27年11月9日（月）に開催された秋季理事会では，第63回総会日程の見直し，委員会の再編と理事の担当，国公私立大学図書館協力委員会に対する分担金の増額，国大図協シンポジウム，海外派遣事業について審議が行われた。
- ③ 平成28年5月9日（月）に開催された春季理事会では，主に「国立大学図書館協会ビジョン2020」（案）に関する案件について審議が行われた。また平成27年度決算及び平成28年度予算案について承認された。
- ④ 第11回国立大学図書館協会マネジメントセミナーを「大学図書館と研究支援」というテーマで，第62回総会翌日の平成27年6月19日（金）に開催し，93大学から218名の参加を得た。
- ⑤ 国大図協のシンポジウムを「ラーニング・コモンズ，日本とアメリカでどう違う？ーラーニング・コモンズの役割を再定義するー」というテーマで，平成28年1月29日（金）に開催し，96大学から166名の参加を得た。
- ⑥ 地区協会助成事業として，6地区から応募があり，助成を行った。
- ⑦ 平成28年度国立大学図書館協会賞について，2件の応募があり，協会賞専門委員会及び総務委員会による審査の結果，九州大学の『「Library Lovers' キャンペーン」による図書館活動の活性化』の1件が受賞することになった。
- ⑧ 海外派遣事業について，平成27年度は，長期が1件1名，短期が4件5名の派遣を行った。平成28年度は，短期2件2名の派遣を予定している。

（総会資料 本編 p.9-14, 59-60 参照）

(2) 委員会等活動報告

宮本議長から、委員会、地区協会等の活動報告については、総会資料（本編 p.16-29, p.30-45）ならびに協会ホームページ上にも掲載しており、本日の報告は省略する旨の説明があった。

2) 協議事項

(1) 平成 28 年度理事・監事の選出について

尾城事務局長から、以下のとおり説明があり、承認された。

① 理事館

○ 東ブロック

- ・北海道地区 …… 北海道大学, 北見工業大学
- ・東北地区 …… 東北大学, 岩手大学
- ・関東甲信越地区 …… 筑波大学, 千葉大学
- ・東京地区 …… 東京大学, 一橋大学

○ 西ブロック

- ・東海北陸地区 …… 名古屋大学, 名古屋工業大学
- ・近畿地区 …… 京都大学, 大阪大学
- ・中国四国地区 …… 広島大学, 鳴門教育大学
- ・九州地区 …… 九州大学, 佐賀大学

② 監事館

- 東ブロック …… 東京学芸大学
- 西ブロック …… 琉球大学

(総会資料 本編 p.53 参照)

(2) 国立国語研究所の入会について

尾城事務局長から、国立国語研究所より 3 月 1 日付で入会申請があり、4 月の東京地区協会の総会、春季理事会でも承認済であるが、共同利用機関の入会については総会の承認を経ることになっている旨の説明の後、審議が行われ、承認された。次いで国立国語研究所研究図書室の胡内係長から挨拶があった。

(総会資料 本編 p.11, 資料編 p.S-5, S-6 参照)

(3) その他

議長から、その他の協議事項は明日の全体会議(2)で審議予定である旨の説明があった。

4. 文部科学省所管事項説明

榎本研究振興局参事官(情報担当)から、所管事項について説明があった。

(1) AI, ビッグデータの研究状況が大きく進展している。文部科学省関係では、4 月か

ら理化学研究所で人工知能関係の新しいセンターを設置した。JST ではファンディングの公募を行っており、様々な研究プロジェクトが立ち上がっている。なお本件については経済産業省及び総務省と一致協力して、国全体のプロジェクトとして進めている。

- (2) オープンサイエンスは、G7 でも話題になるなど、大きな柱となっている。その中で文部科学省では『学術情報のオープン化の推進について』という審議まとめを公表した。短いレポートで誰が何をすべきかを分かり易く整理しているが、更に内容の検討を進めていきたい。

引き続き、菅原研究振興局参事官（情報担当）付学術基盤整備室大学図書館係長から、①学術情報の流通に関しオープンサイエンスを絡めた最近の動向、②大学図書館を含む学修環境の整備、③学術情報基盤実態調査の調査目的等について説明があった。

（総会資料 文部科学省「大学図書館に関する最近の動向等について」 参照）

5. 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議報告

1) 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）報告

小陳国立情報学研究所学術基盤推進部図書館連携・協力室長から、以下の報告があった。

- (1) 電子ジャーナル（個別タイトル）の定価の価格上昇率は、年平均5～6%であるが、実際のところ冊子体の頃から購読額は上昇傾向にある。
- (2) 交渉により各社パッケージの価格上昇率を抑える努力はしているが、円安の影響でその効果は相殺されている。
- (3) 図書館資料費について、国公立1大学あたりの過去40年間の平均額推移を調べたところ、1980年頃と同水準で、ピーク時の1990年代に比べ平均3,500万円の減になっている。また大学全体の予算に占める図書館資料費の割合について、40年前は2%だったが現在は1%にまで減少している。紙の図書は1990年代のピーク時の約4割と深刻な状況となっている。大学の総経費が40年前から上昇傾向にあることを踏まえると、大学が図書館資料費に予算を割かなくなっている、あるいは割けなくなっている状況にあると考えられる。
- (4) 出版社側としても値上げをしなければ経営を維持できない状態にあり、出版社を非難するだけでは問題は解決しないのではないかと思われる。ヨーロッパでは購読料をオープンアクセス料に振り替える等の試験的導入も始まっており、同様の工夫が必要と考えられる。現在 JUSTICE では、出版社交渉に使用するため、オープンアクセス料の支払い額の調査中であり、調査結果は今後、ご報告したい。

（総会資料 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）「活動報告」 参照）

2) これからの学術情報システム構築検討委員会報告

甲斐京都大学附属図書館事務部長から、以下の報告があった。

- (1) NACSIS CAT/ILL について、基本方針案策定のため、4月に意見を募集したところ、119件の回答があった。国立大学からは20大学47件の意見があり、これらは5月26日開催のNIIオープンフォーラムで紹介され、Webでも公開している。現在、意見を分析中で、7月の連携・協力推進会議で基本方針の承認後、対応案を提示する予定である。

(総会資料 これからの学術情報システム構築検討委員会「報告」参照)

3) 機関リポジトリ推進委員会報告

富田北海道大学附属図書館事務部長から、以下の報告があった。

- (1) 機関リポジトリの収容コンテンツ充実のため、ILLにおいて複写件数の多い論文を公開した。国内の学協会を対象に「オープンサイエンス対応状況および今後のオープンアクセス方針策定予定についての調査 (SCPJ再調査)」を実施した。
- (2) 新任担当者とは中堅担当者研修をそれぞれ実施した。今年度は新任担当者研修のみ実施する予定である。
- (3) Berlin12, IDCC16, RDA 東京大会に参加した。また NISO の RDM 手引書を和訳公開した。
- (4) オープンアクセスリポジトリ推進協会の立ち上げ準備を進めており、現在、参加意向を関係機関に確認中で、7月27日に設立総会を開催する。
- (5) 講師派遣、公式 Facebook ページを開設、オープンフォーラムを開催した。

(総会資料 機関リポジトリ推進委員会「活動報告」参照)

6. 研究集会 テーマ報告 (1)

企画担当館 (山部一橋大学附属図書館長) の進行により、「国立大学図書館協会ビジョン2020」(案) について説明の後、深貝横浜国立大学教授 (前図書館長) から同ビジョンの背景について報告があり、次いで竹内千葉大学附属図書館長から同ビジョンの構成と狙いについて報告があった。

(総会資料 本編 p. 82-83 および

別紙1 第63回国立大学図書館協会総会研究集会テーマ報告議事要旨 参照)

7. 研究集会 テーマ報告 (2)

引原京都大学附属図書館長の進行により、「国立大学図書館協会ビジョン2020」(案) についてパネルディスカッションがあり、種々意見交換が行われた。

(別紙1 第63回国立大学図書館協会総会研究集会テーマ報告議事要旨 参照)

8. 散会

1. 全体会議（2）

1) 協議事項

(1) 平成27年度決算報告・同監査報告について

(2) 平成27年度記念基金決算報告・同監査報告について

上記2件について、事務局（木下東京大学附属図書館総務課長）から、総会資料により、決算報告（案）及び財産目録（案）の説明があった後、監事を代表し、沖岡山大学附属図書館長から、監事館である信州大学及び岡山大学により平成28年5月9日に東京大学附属図書館において監査を行った結果、平成27年度収支決算について、適正に処理されているとの監査報告があり、併せて承認された。

（総会資料 本編 p.54-58 参照）

(3) 「国立大学図書館協会ビジョン2020」（案）について

尾城事務局長から、前日開催された研究集会での議論を踏まえ、改めて趣旨説明があった後、議長から諮り、審議の結果、資料の文言について、「大学図書館」を「国立大学図書館」に修正すること、また「連携」の概念について事務局で再検討することを踏まえた上で、承認された。

（総会資料 本編 p.59-60 参照）

(4) 会則等の改正について

尾城事務局長から、国立大学図書館協会会則の改正について（案）及び「委員会の設置について（申し合わせ）」の改正について（案）が提案され、審議の結果、原案のとおり承認された。

（総会資料 本編 p.61-62 参照）

(5) 平成28年度事業計画（案）及び委員会設置要項（案）の制定について

尾城事務局長から、平成28年度事業計画（案）及び委員会設置要項（案）に基づき以下の提案があり、原案のとおり承認された。

① 委員会の設置について

国立大学図書館協会ビジョン実施にあたる新たな委員会として、「総務委員会」、「オープンアクセス委員会」、「学術資料整備委員会」、「学術情報システム委員会」、「図書館環境高度化委員会」の5つを設置することについて説明の後、「委員会設置要項」（案）について提案があり、承認された。

（総会資料 本編 p.63-65 参照）

② 国立大学図書館協会シンポジウムの開催について

詳細等未定であるが、開催を予定している。

③ 地区活動の助成

各地区協会の事業計画に対して、事業費の助成を引き続き実施する。

④ 海外派遣事業

今年度は、短期2件2名を派遣する。

(6) 平成28年度予算(案)について

事務局(木下東京大学附属図書館総務課長)から、国立大学図書館協会平成28年度予算(案)及び国立大学図書館協会記念基金平成28年度予算(案)が提案され、審議の結果、一部誤記を修正の上承認された。

(総会資料 本編 p.66-69 参照)

(7) その他

渡邊信州大学附属図書館長から、国立大学図書館協会のこれまでの業績を社会が認知するような働きかけを協会で積極的に行っていくべきとの意見があり、種々意見交換の後、総務委員会が中心となり情報発信について検討することを確認した。

2. 国立情報学研究所事業説明

酒井学術基盤推進部次長から、事業概要について説明があった。

- (1) 平成28年4月から、全国を100ギガのネットワーク網で結ぶSINET5を運用している。
- (2) 永らく利用いただいたNII-ELSが平成29年3月で終了する。平成27年4月から電子リソース共有基盤ERDB-JPの運用を開始した。CiNii及びJAIRO Cloudのサービス充実に取り組んでいる。オープンアクセスリポジトリ推進協会の設立を踏まえ、JAIRO Cloudの今後の運用について検討していきたい。
- (3) 国立情報学研究所と国公私立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定を平成28年2月に継続更新した。JUSTICEと連携して電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保障体制の整備に取り組んでいる。オープンアクセスの在り方について、国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)を通じ、機関リポジトリ推進委員会と連携してAPC実態調査を実施し検討している。DOI(Digital Object Identifier)を、これからのデータ活用を推進するような仕組みとして利用していきたい。
- (4) 研究データを公開・共有する基盤整備に向けた検討に着手した。研究者の研究ワークフローを上手に取り込み、研究する中で意識することなくデータ管理できるようなインターフェースを考えていきたい。

(総会資料 国立情報学研究所「学術コンテンツ事業のご説明」参照)

3. 国立大学図書館協会賞表彰式

高橋協会賞専門委員会委員長(広島大学図書館部長)より、審査の結果、九州大学の『Library Lovers' キャンペーン』による図書館活動の活性化が協会賞選考基準第4条第1項第4号に該当するものと判断され、協会賞として選考したとの報告があった。

続いて久留島会長から、受賞者の Library Lovers' キャンペーン事務局（九州大学附属図書館利用支援課）の堀優子氏に表彰状と記念品が授与された後、会長から祝辞があり、同氏が受賞の挨拶を行った。

（総会資料 本編 p.15 及び『Library Lovers' キャンペーン』による
図書館活動の活性化」参照）

4. 海外派遣報告

平成 27 年国立大学図書館協会海外派遣事業により派遣された 5 件 6 名から、それぞれの調査研究テーマについて報告があった。

（総会資料 本編 p.70-81 参照）

5. 全体会議（3）

1) 理事会への付託事項の確認

特になし。

2) 事務局報告

事務局（木下東京大学附属図書館総務課長）より、国立大学図書館協会記念基金について、36 名から 23 万円の寄付があった旨の報告があった。

また総会終了後、引き続き本会場で第 1 回理事会を開催する旨の連絡があった。

6. 次期当番館挨拶

次期総会当番館（関東甲信越地区）として、竹内千葉大学附属図書館長から挨拶があり、期日は平成 29 年 6 月 22 日（木）～23 日（金）、開催会場は千葉市内を予定している旨の案内があった。

7. 閉会式

1) 閉会の辞 引原 隆士（国立大学図書館協会副会長）

2) 挨拶 植木 俊哉（東北大学附属図書館長）

8. 散会

以 上